



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月10日

上場会社名 アルコニックス株式会社

上場取引所 東

コード番号 3036 URL <http://www.alconix.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 正木 英逸

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員財務本部長 (氏名) 宮崎 泰 TEL 03-3596-7400

四半期報告書提出予定日 平成26年2月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	137,245	6.4	2,892	4.9	2,687	1.3	2,457	75.4
25年3月期第3四半期	129,029	△26.0	2,757	△36.5	2,653	△40.8	1,401	△45.3

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 4,615百万円 (178.9%) 25年3月期第3四半期 1,654百万円 (△25.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	386.60	385.30
25年3月期第3四半期	220.57	219.66

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第3四半期	86,158	19,755	22.3	3,027.41
25年3月期	70,382	15,818	21.8	2,414.98

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 19,242百万円 25年3月期 15,347百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	30.00	—	30.00	60.00
26年3月期	—	30.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	30.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	180,000	9.2	3,300	0.4	3,300	14.1	2,700	88.7	424.78

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	6,356,400 株	25年3月期	6,355,200 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	185 株	25年3月期	114 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	6,356,063 株	25年3月期3Q	6,353,100 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信[添付資料]の4ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、米国において金融緩和策の持続により個人消費を中心に緩やかな景気回復が継続しており、欧州においても景気に持ち直しの動きが見られます。一方、中国及び新興国においては、欧米経済の回復により景気減速に歯止めがかかるものの本格的な回復基調には至っておりません。

わが国経済は、円安効果により輸出採算が改善した自動車産業を中心に生産が回復を続けており、また堅調な公共投資、住宅投資に加え、個人消費が底堅く推移したことにより緩やかな景気回復を続けました。

当社グループを取巻く非鉄金属業界においては、ハイブリッド車、及びスマートフォン・タブレット端末向け需要が引続き拡大するものの、パソコン等IT関連機器や液晶テレビ等デジタル家電向け需要は低迷しており、最終需要製品により明暗が分かれるまだら模様の中で推移いたしました。

このような経済環境のもと、当社グループの売上面においては自動車部品向けアルミ原料、空調機器向け伸銅品並びにアルミ製品の輸出取引が増加した一方で、プラント、船舶向けチタン、ニッケル製品の輸出取引、及びレアメタル・レアアースの取扱いが減少いたしました。とりわけレアアースにおいては市況低迷と主要取引先の在庫調整の継続により特に重希土類の取り扱いが前年同期に比べ大きく落ち込みました。利益面においては円安に伴う伸銅品等の輸出取引、及び国内連結子会社の業績回復に加え、第1四半期連結累計期間より収益取込を開始した国内連結子会社2社及び、米国めっき素材製造子会社の業績がレアアース取引の利益減少をカバーいたしました。また国内連結子会社の株式取得及び事業譲受に伴う負ののれん発生益を特別利益に計上したことにより四半期純利益は大幅な増益となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における連結経営成績は、売上高137,245百万円（前年同期比6.4%増加）、営業利益2,892百万円（同4.9%増加）、経常利益2,687百万円（同1.3%増加）、四半期純利益2,457百万円（同75.4%増加）となりました。

当第3四半期連結累計期間におけるセグメントの業績は次のとおりであります。また、各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

・軽金属・銅製品事業

円安による追い風を受けて、国内外の自動車、大型二輪用を中心とした素材取引が堅調に推移したことに加え、建設、航空機、空調関連部材の需要底上げにより国内流通子会社、製造子会社の収益が貢献いたしました。この他、第1四半期連結累計期間に連結子会社化した国内製造会社の収益を取込み、増収増益となりました。

この結果、当セグメントにおける売上高は56,205百万円（前年同期比18.4%増加）、セグメント利益は1,112百万円（同69.9%増加）となりました。

・電子・機能材事業

太陽光発電関連部材が順調に推移した他、米国景気の復調や円安効果により銅加工品、環境関連商品等の北米向け輸出取引が伸びました。一方、中国電力プラント向けチタン・ニッケルの輸出取引については契約残の出荷、並びに関連プロジェクトの再始動を受けて復調の兆しが見えてまいりましたが、欧州向け輸出は需要低迷により減少いたしました。また成長著しいスマートフォン、タブレット端末関連部材においては、最終製品の販売動向、及び機種変更等の変動要因により、関連素材の取扱いが前年同期に比べ微減となりました。

レアメタル・レアアースの分野では、レアアースの価格が大きく下落する中で、軽希土類の取扱いが在庫調整の一巡とハイブリッド車の生産増等により増加に転じましたが、重希土類については材料メーカーにおける在庫調整が続いており、売上、利益共に前年同期に比べ大きく減少いたしました。なお、前連結会計年度に連結子会社化した米国めっき材料製造会社が連結業績に貢献いたしました。

この結果、当セグメントにおける売上高は52,632百万円（前年同期比10.4%減少）、セグメント利益は1,314百万円（同26.7%減少）となりました。

・非鉄原料事業

円安によるアルミ・銅の市況上昇に加え、銅スクラップ、化学品用金属珪素、鉄鋼用アルミ脱酸材、軽金属圧延用マグネシウム地金、及び亜鉛地金の取扱いが堅調に推移し、売上は前年比で大きく増加いたしました。また第1四半期連結累計期間に連結子会社化した国内アルミスクラップリサイクル会社の収益が寄与しましたが、一方、当セグメントの主力である輸入アルミ合金塊の取扱いについては、円安で仕入コストが上昇し、競争激化により減益となりました。

この結果、当セグメントにおける売上高は25,091百万円（同32.1%増加）、セグメント利益は91百万円（同15.1%減少）となりました。

・建設・産業資材事業

住宅投資・公共投資が増加する一方、民間設備投資は若干回復しつつあるものの依然として低水準にて推移いたしました。また急激な円安によって素材・原材料価格が上昇いたしました。市場の縮小や復興・復旧の遅れによる需要低迷の影響により製品価格への転嫁が進まず、国内における建設産業資材・配管機材類の取扱いは引き続き盛り上がり欠ける状態が続きました。一方で、円安効果により東南アジア向け配管機材、及び銅合金素材の輸出・海外取引は好調に推移いたしました。

この結果、当セグメントにおける売上高は9,400百万円（同5.8%増加）、セグメント利益は151百万円（同67.8%増加）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①財政状態

a. 流動資産

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は67,883百万円であり、前連結会計年度末比12,528百万円の増加となりました。主な内訳は受取手形及び売掛金の増加7,247百万円、たな卸資産の増加3,457百万円、及び現金及び預金の増加2,291百万円であります。

b. 固定資産

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は18,275百万円であり、前連結会計年度末比3,247百万円の増加となりました。主な内訳は第1四半期連結会計期間に連結子会社となった国内連結子会社2社の有形固定資産の増加2,131百万円、円安に伴う為替換算差額の変動等による海外連結子会社の無形固定資産の増加263百万円、及び上場株式の時価評価等に伴う投資その他の資産の増加853百万円であります。

c. 流動負債

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は50,965百万円であり、前連結会計年度末比10,868百万円の増加となりました。主な内訳は支払手形及び買掛金の増加5,972百万円、短期借入金の増加3,004百万円、及び1年内返済予定の長期借入金の増加911百万円、及び未払法人税等の増加525百万円であります。

d. 固定負債

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は15,437百万円であり、前連結会計年度末比970百万円の増加となりました。主な内訳は長期借入金の増加804百万円、及び流動負債への振替に伴う社債の減少300百万円であります。

e. 純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産は19,755百万円であり、前連結会計年度末比3,937百万円の増加となりました。主な内訳は利益剰余金の増加2,038百万円、為替換算調整勘定の増加1,454百万円、及び上場株式の時価評価に伴うその他有価証券評価差額金の増加339百万円であります。

②経営成績

a. 売上高

売上高の主な増加要因は、自動車部品向けアルミ再生塊並びにアルミニウムスクラップ、銅製錬用銅スクラップ、半導体製造装置・航空機部材向け軽金属切削加工部品、省エネ対応空調機器の需要増加による銅管等伸銅品並びにアルミ製品の輸出取引等であります。主な減少要因は、欧州向けチタン・ニッケル製品の輸出取引、家電向け二次電池材料用ニッケル粉末等であります。レアアースにおいては、軽希土類が前年同期に比べ増加いたしました。一方、重希土類については市況低迷と取引先の在庫調整が続き低調に推移いたしました。一方、第1四半期連結累計期間より収益取込を開始した連結子会社の売上が連結業績に寄与いたしました。この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は、前年同期比6.4%増加の137,245百万円となりました。

b. 売上総利益

売上増加に加え、第1四半期連結累計期間より収益取込を開始した連結子会社の業績が寄与し、当第3四半期連結累計期間における売上総利益は前年同期比22.9%増加の8,430百万円となりました。

c. 販売費及び一般管理費

第1四半期連結累計期間より収益取込を開始した連結子会社の費用計上により、当第3四半期連結累計期間における販売費及び一般管理費は前年同期比35.0%増加の5,537百万円となりました。

d. 営業利益

上記の結果、当第3四半期連結累計期間における営業利益は前年同期比4.9%増加の2,892百万円となりました。

e. 営業外収益、営業外費用

円安により外貨建決済取引に係る為替差損が発生したこと等から、営業外収支（営業外収益－営業外費用）は205百万円の費用超となりました（前年同期は104百万円の費用超）。なお、上記の為替差損につきましては、円安を背景とした売上総利益の増益とトレードオフの関係にあります。

f. 経常利益

上記の結果、当第3四半期連結累計期間における経常利益は前年同期比1.3%増加の2,687百万円となりました。

g. 特別利益、特別損失

第1四半期連結累計期間より連結子会社化した国内連結子会社の株式取得、事業譲受に伴う負ののれん発生益839百万円、及び投資有価証券清算分配金110百万円を特別利益に計上した一方、その他特別損失として71百万円を計上いたしました。

h. 四半期純利益

税金等調整前四半期純利益3,575百万円から法人税等1,066百万円、連結子会社4社における少数株主利益51百万円を差引き、当第3四半期連結累計期間における四半期純利益は前年同期比75.4%増加の2,457百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点においては、平成25年10月22日の「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想を変更しておりません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

・税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,082	13,374
受取手形及び売掛金	30,055	37,302
商品及び製品	11,727	14,278
仕掛品	388	1,117
原材料及び貯蔵品	321	499
その他	2,124	1,780
貸倒引当金	△345	△468
流動資産合計	55,355	67,883
固定資産		
有形固定資産	3,940	6,071
無形固定資産		
のれん	2,528	2,651
その他	3,530	3,671
無形固定資産合計	6,059	6,323
投資その他の資産	5,026	5,880
固定資産合計	15,027	18,275
資産合計	70,382	86,158
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	23,243	29,216
短期借入金	12,250	15,254
1年内返済予定の長期借入金	1,978	2,889
1年内償還予定の社債	600	600
未払法人税等	101	627
賞与引当金	406	287
その他	1,516	2,088
流動負債合計	40,097	50,965
固定負債		
社債	1,800	1,500
長期借入金	10,297	11,102
退職給付引当金	271	300
役員退職慰労引当金	166	196
長期未払金	73	158
その他	1,858	2,179
固定負債合計	14,467	15,437
負債合計	54,564	66,403

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,832	2,833
資本剰余金	1,874	1,875
利益剰余金	10,226	12,264
自己株式	△0	△0
株主資本合計	14,932	16,973
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	83	422
繰延ヘッジ損益	△36	24
為替換算調整勘定	367	1,822
その他の包括利益累計額合計	414	2,269
新株予約権	42	38
少数株主持分	427	473
純資産合計	15,818	19,755
負債純資産合計	70,382	86,158

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
売上高	129,029	137,245
売上原価	122,171	128,815
売上総利益	6,858	8,430
販売費及び一般管理費	4,100	5,537
営業利益	2,757	2,892
営業外収益		
受取利息	9	65
仕入割引	17	13
受取配当金	37	41
不動産賃貸収入	35	43
持分法による投資利益	109	114
その他	50	145
営業外収益合計	259	424
営業外費用		
支払利息	177	274
売上割引	7	8
為替差損	68	222
手形売却損	38	27
不動産賃貸原価	15	20
その他	56	76
営業外費用合計	364	630
経常利益	2,653	2,687
特別利益		
持分変動利益	20	—
負ののれん発生益	—	839
その他	1	119
特別利益合計	21	959
特別損失		
投資有価証券評価損	270	25
関係会社整理損	—	40
その他	36	4
特別損失合計	307	71
税金等調整前四半期純利益	2,367	3,575
法人税等	910	1,066
少数株主損益調整前四半期純利益	1,457	2,508
少数株主利益	56	51
四半期純利益	1,401	2,457

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,457	2,508
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	30	339
繰延ヘッジ損益	△61	63
為替換算調整勘定	237	1,440
持分法適用会社に対する持分相当額	△9	262
その他の包括利益合計	197	2,106
四半期包括利益	1,654	4,615
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,599	4,553
少数株主に係る四半期包括利益	55	62

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

[セグメント情報]

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	軽金属・銅製品	電子・機能材	非鉄原料	建設・産業資材	
売上高					
外部顧客に対する売上高	46,949	56,276	18,495	7,307	129,029
セグメント間の内部売上高又は振替高	520	2,441	504	1,576	5,043
計	47,470	58,717	19,000	8,884	134,072
セグメント利益	655	1,792	107	90	2,646

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

前第3四半期連結会計期間において、UNIVERTICAL HOLDINGS INC. 他7社を新たに連結の範囲に含めております。これにより、前第3四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「電子・機能材」セグメントにおいて、2,193百万円増加しております。

なお、前第3四半期連結財務諸表作成時点における入手可能な合理的情報に基づいて、暫定的な会計処理を行っております。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,646
セグメント間取引消去	7
四半期連結損益計算書の経常利益	2,653

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「電子・機能材」セグメントにおいて、UNIVERTICAL HOLDINGS INC. を新たに設立し、同社がUNIVERTICAL CORPORATION他3社の株式を取得したことにより、のれんの金額に重要な変動が生じております。当該事象によるのれんの増加額は、前第3四半期連結会計期間においては2,267百万円であります。

なお、前第3四半期連結財務諸表作成時点における入手可能な合理的情報に基づいて、暫定的な会計処理を行っております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自平成25年4月1日至平成25年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計
	軽金属・銅製品	電子・機能材	非鉄原料	建設・産業資材	
売上高					
外部顧客に対する売上高	55,801	49,975	24,575	6,892	137,245
セグメント間の内部売上高又は振替高	404	2,657	515	2,507	6,084
計	56,205	52,632	25,091	9,400	143,330
セグメント利益	1,112	1,314	91	151	2,670

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第1四半期連結会計期間において、大羽精研株式会社の全株式を取得し新たに連結の範囲に含めております。これにより、前連結会計年度末に比べ、当第3四半期連結会計期間末の報告セグメントの資産の金額は、「軽金属・銅製品」セグメントにおいて、2,109百万円増加しております。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,670
セグメント間取引消去	16
四半期連結損益計算書の経常利益	2,687

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれんの発生益)

「軽金属・銅製品」セグメントにおいて、大羽精研株式会社の全株式を取得し新たに連結の範囲に含めております。当該事象による負ののれんの発生益の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては785百万円であります。

「非鉄原料」セグメントにおいて、アルミリサイクル株式会社より大阪アルミセンター事業を譲受けております。当該事象による負ののれんの発生益の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては53百万円であります。